

大洲に生きる藤樹先生

三田村治夫

藤樹像と先生にまつわる碑—大洲偏—

過日、三十年ぶりに大洲市を訪れる機会を得ました。バスで市内に入っていくと、新たに整備された大洲城、高速道、立ち並ぶ量販店などがかつての記憶をますます不確かなものにし、初めて足を踏み入れる土地であるかのような新鮮さを覚えました。

さて、ここでは、今回の旅で目にした「藤樹像」と「藤樹先生にまつわる碑」を中心に紹介します。

まずは、二〇〇四年に木造により天守が復元された大洲城内の見晴らしの良いところに、藤樹座像が故郷近江の方に向けて建てられています。明

治四十三年十月に建立、大正十四年六月に改鑄、さらに昭和二十七年十一月に再建といった歴史があり、原型制作は、塩崎宇宙氏によります。左はその台座の碑文です。

藤樹先生賛

内外警徹八面玲瓏

千古聖德萬衆知崇

大洲藤樹会総裁

舊大洲藩主正三位子爵加藤泰秋書

また、その台座の前には、藤樹先生を紹介した石碑がありました。

近江聖人 中江藤樹先生 (1608~1648)

先生の名は原、通称は与右衛門、生家は近江の小川村(滋賀県)屋敷内に大きな藤の木が生い茂り、その下で学問を積み、敬い集まる人々を導いたので、藤樹先生と呼ばれ、後の世の人々からは近江聖人と敬慕されてきた。

大洲は、先生が10歳から27歳まで過ごされた立志・感恩・勉学の地である。大洲の人々は、先生ゆかりの地として、その学徳を追慕し、藤樹先生の心をいつまでも継承しようと、この城山に銅像を建立した。

- ※教え—「孝」「致良知」「慎独」「知行合一」など
- ※著書—「翁問答」「鑑草」「春風」「捷徑医案」など

平成9年11月吉日 記 大洲藤樹会

左手には、藤樹先生生誕四百年を記念して設置された「孝」の石碑が



あり、さらに左には「題忍字」の詩碑があつて、その読み下しの石碑が添えてありました。

次に、大洲高校の校庭にある中江藤樹邸跡を見学し



忍の字に題す 中江藤樹
一たび忍べば七情皆中和す
再び忍べば五福皆ならびいたる
忍んで百忍に至れば満腔の春
ききたる宇宙すべて真境
昭和五十五年三月建立
至善流大洲吟詠会

ました。昭和三十五年、当校創立六十周年を記念して築かれた天心園(和風庭園)の正面中央に藤樹青年像(塩崎宇宙氏作)がありました。



庭園の奥に進むと邸跡が広がり、藤樹先生の旧邸になぞらえて、昭和十四年に



建てられた至徳堂があります。この奥の正面に、先生の木像が安置されています。また、

至徳堂の前庭には、昭和三十三年藤樹先生生誕三百五十年記念に建立された二石からなる「孝碑」があります。その右の石には銅板レリ



「孝」の文字及びその辞解が彫られた。